ておられるのである。しかし，わたしがいま肉にあって生きているのは，わたしを愛し，わたしのためにご自身をささげられた神の御子（みこ）を信じる信仰によって，生きているのである。わたしは，神の恵みを無にはしない。もし，義が律法によって得られるとすれば，キリストの死はむだであったことになる。

（「ガラテヤ人への手紙」『新約聖書』2章19-21）

信仰と希望と愛

たといわたしが，人々の言葉や御使（みつかい）たちの言葉を語っても，もし愛がなければ，わたしは，やかましい鐘（かね）や騒がしい鐃鉢（にょうはち）と同じである。たといまた，わたしに預言をする力があり，あらゆる奥義（おくぎ）とあらゆる知識とに通じていても，また，山を移すほどの強い信仰があっても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい。たといまた，わたしが自分の全財産を人に施（ほどこ）しても，また，自分のからだを焼かれるために渡しても，もし愛がなければ，いっさいは無益である。

愛は寛容（かんよう）であり，愛は情（なさけ）深い。また，ねたむことをしない。愛は高ぶらない，誇（ほこ）らない，不作法をしない，自分の利益を求めない，いらだたない，恨（うら）みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして，すべてを忍び，すべてを信じ，すべてを望み，すべてを耐（た）える。

愛はいつまでも絶えることがない。しかし，預言はすたれ，異言（いげん）はやみ，知識はすたれるであろう。なぜなら，わたしたちの知るところは一部分であり，預言するところも一部分にすぎない。全（まった）きものが来る時には，部分的なものはすたれる。……しかしその時には，顔と顔とを合わせて，見るであろう。わたしの知るところは，今は一部分にすぎない。しかしその時には，わたしが完全に知られているように，完全に知るであろう。このように，いつまでも存続するものは，信仰と希望と愛と，この三つである。このうちで最も大いなるものは，愛である。

（「コリント人への第一の手紙」『新約聖書』13章1-13）